

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について
(予報第5号(9月))

標記について、次のとおり発表します。

《9月の病害虫発生予報》

＜作物＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
			もみ枯細菌病			
				内えい褐変病		
				紋枯病		
			セジロウンカ			
				トビロウンカ		
				ツマグロヨコバイ		
				ニカメイガ		
				イチモンジセセリ		
				コブノメイガ		
			斑点米カメムシ類			

＜果樹類＞

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				褐斑病		
				さび病		
			フタテンヒメヨコバイ			
もも					せん孔細菌病	
		クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん				黒点病		
				そうか病		
				かいよう病		
				ミカンハダニ		
				アブラムシ類		
				ナシマルカイガラムシ		
果樹類 全般				果樹カメムシ類		

<野菜類>

目	程度品	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			褐紋病			
			ミカンキイロ アザミウマ			
きゅうり			うどんこ病			
				炭そ病・褐斑病		
				べと病		
			ワタヘリクロノメイガ			
トマト			コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病			
	あからな科野菜 (キャベツ・ しろな等)			コナガ		
				ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)		

<花き>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく			黒斑病・褐斑病			
				白さび病		
			アザミウマ類			

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
花き類・ 野菜類・ 全般			アブラムシ類・ ウイルス病			
				ハダニ類		
				ハスモンヨトウ		
					シロイチモジ ヨトウ	
				オオタバコガ		

《今月のトピックス》

■今後の発生に注意が必要な病害虫

【もも】クビアカツヤカミキリ

一部地域で発生・被害が見られます。ほ場内をよく見回り、フラスを見つけたらしっかりと対策しましょう。ももの他にさくらやうめ、すもも等のバラ科樹木で被害が確認されています。

具体的な対策については、4月11日発表の防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒!!」を参考にして下さい。病害虫防除グループホームページ参照 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

【野菜・花き類】シロイチモジヨトウ

シロイチモジヨトウの多発が引き続き予想されます。暑さが一段落するタイミングで急激に増加する可能性がありますので、ほ場の様子に注意しましょう。

■現在、発生は平年並だが、**今後の発生に注意**が必要な病害虫

- 【きゅうり】 褐斑病・べと病（急激な冷え込みによる結露で発生）
 【あぶらな科野菜】 コナガ（薬剤抵抗性系統が増加している）
 【野菜・花き類】 ハダニ類（急激な増加に注意）

≪（参考）9月の気象予報≫（大阪管区气象台8月30日発表）

気温	低い（40%）	平年並（30%）	高い（30%）
降水量	少ない（20%）	平年並（40%）	多い（40%）
日照時間	少ない（40%）	平年並（40%）	多い（20%）

（詳細は、一覧表参照）

A 作物

1 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県において QoI 剤耐性菌の発生が報告されている。 QoI 剤成分例:アゾキシストロビン(アミスターエイト)、 オリサストロビン(嵐粒剤)、 メミノストロビン(イモチエース粒剤、オリブライト 250G)、等
もみ枯細菌病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～平年並であった。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂前後が多雨であれば発生が多くなる。
内えい褐変病	並 ～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・台風 20 号の影響が懸念される。 ・9月の降水量は平年並か多く、気温は平年並と予想されている。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出穂期が高温多雨であれば発生が多くなる。
紋枯病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温多湿であれば発病が多くなる。
セジロウンカ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～並であった。 ・予察灯への飛来虫数はやや少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。
トビイロウンカ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年と同様発生は見られなかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急激に増加する恐れがあるので、今後のメールサービス等の病害虫発生予察情報に注意し、発生初期の防除を徹底する。

ツマグロヨコバイ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、全般的に発生は平年よりやや少なかったが、一部地域でやや多かった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤はなるべく株元にかかるように散布する。
ニカメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予察灯、フェロモントラップへの飛来虫数は平年並であった。 ・巡回調査では、平年と同様に見られなかった。
イチモンジセセリ(イネツトムシ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年と同様に発生はほとんど見られなかった。 ・予察灯への飛来虫数は平年と同様にほとんどなかった。
コブノメイガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・予察灯への飛来虫数、フェロモントラップによる誘殺虫数とも平年並であった。
斑点米カメムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月の予察灯への飛来虫数は平年並～やや多かった。 ・8月15日のすくいとり調査では、捕獲虫数は平年並であった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水田周辺の雑草に生息している個体が、出穂期以降水田に侵入する可能性があるため、水田の観察を行い、適宜防除する。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 ・収穫前にボルドー液を散布する際は、果実の汚れを防ぐため棚上散布を行う。 ・収穫終了後も発生を確認すれば早期に防除する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雨が続き、気温が低めに経過すると発生が多い。 ・露地栽培のデラウェア、欧州系品種に発生が多い。
褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生により早期落葉が多くなると、樹勢が低下して次作の新梢発生の遅れや減少などにつながる。 ・収穫終了後も、発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地デラウェアに発生が多い。

さび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は平年並みであった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収穫終了後も、発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・露地デラウェアに発生が多い。
フタテンヒメ ヨコバイ	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では発生は平年よりやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬剤防除によりハダニ類発生を誘発する可能性があるため、ハダニ類の発生が見られる園ではダニ剤散布もあわせて行う。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌 病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果実や枝病斑は、感染源となるためほ場外へ持ち出し適切に処分する。 ・発生の多かったところでは、秋期防除を徹底する。9月上旬～10月上旬頃に無機銅剤などの登録薬剤を2週間間隔で計3回散布する。
クビアカツヤ カミキリ	発生に注意	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部地域において被害が確認されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生が確認されていない地域でも発生に注意し、ほ場をよく見回る。 ・6月～8月に成虫が羽化する。幼虫は4月～10月頃にかけてフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物でうどん状に固まる）を排出する。 ・うどん状のフラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入するか、針金で幼虫を突き刺し殺虫する。 <p>※詳しくは4月11日発表の防除情報を参照。</p>

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝を除去する。 ・使用時期が収穫前2週間以上の農薬が多いため、散布前に必ず収穫前日数を確認する。
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病した葉や果実を取り除き、防除を徹底する。

かいよう病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風など強風雨が予想される場合は、薬剤防除を行う。
ミカンハダニ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・ミカンサビダニの発生が見込まれるほ場では、サビダニにも効果のある剤を使用する。
アブラムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並～やや多かった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ナシマルカイガラムシ (サンホーゼカイガラムシ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・越冬期(樹勢が弱っている場合は3月中～下旬)にマシン油散布を行い、次作に向けた越冬幼虫の防除を行う。

4 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
褐紋病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 ・9月の降水量は平年並か多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場内の排水を良好にし、窒素質肥料が過用とにならないよう注意する。 ・胞子の飛散により発生が拡大するので、発病した葉や果実、枝は直ちにほ場外へ持ち出して処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種子伝染するので、自家採種を行う場合は十分に注意する。
ミカンキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物にトマト黄化えそウイルス(TSWV)を媒介する。

2 きゅうり

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
うどんこ病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生はやや少なかった。 ・9月の日照時間は平年並か少ないと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こまめに摘葉を行い、過繁茂にならないようにする。 ・発生初期の防除を徹底する。 ・草勢が弱ると多発しやすいので、肥切れにならないように管理する。 ・QoI 剤(アミスター20フロアブル、フリントフロアブル25など)の連用は避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病は、日照不足、乾燥条件下で多発する。 ・ブルームレス台木では、うどんこ病が発生しやすい。
炭そ病・褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意すること。 ・ハウス内の過湿を避ける。 ・窒素過多は発生を助長するので、窒素肥料のやりすぎに注意する。 ・QoI 剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブルなど)の連用は避ける。

べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年と同様に発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋口に急激な冷え込みがあると、ハウス内で結露が発生し、一晩で病気が蔓延することがあるので、天気予報に注意すること。 ・ハウス内の過湿を避ける。 ・肥切れすると発病しやすいので、肥培管理に注意する。 ・QoI 剤(アミスター20フロアブル、ストロビーフロアブル、ホライズンドライブフロアブル)の連用は避ける。
ワタヘリクロノメイガ(ウリノメイガ)	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスの開口部をネット等(2mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・食害株の幼虫を捕殺する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス抑制栽培の定植直後に発生が認められることが多い。
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は一部ほ場で平年よりやや多かったが、全般では平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場より持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草に努める。

3 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナジラミ類 ・ トマト黄化葉巻病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、コナジラミ類・トマト黄化葉巻病ともに発生は見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コナジラミ類の発生初期の防除に努める。 ・施設では、開口部をネット等(0.4mm 目合)で被覆し、コナジラミ類成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・コナジラミ類の防除は、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・トマト黄化葉巻病に感染すると、治療薬はないので感染株はすぐに処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病を媒介する。

4 あぶらな科野菜（キャベツ・しろな等）

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 予察灯への飛来虫数、フェロモントラップによる誘殺虫数とも平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、薬剤抵抗性の系統が増加している。 発生初期に防除を行う。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 特にジアミド系薬剤の連用は避ける。
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 予察灯への飛来虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 被覆資材によるべたがけ、トンネルがけの防除効果は高い。 セル成型苗で発生すると欠株を生じるので、発生初期の防除を徹底する。

D 花き きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・ 褐斑病	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。 被害葉、茎は直ちにほ場外に持ち出して処分する。
白さび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、平年同様発生はほとんど見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。 被害葉、茎は直ちにほ場外に持ち出して処分する。
アザミウマ類	やや少ない ～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> 花卉に被害を及ぼすミカンキイロアザミウマ等の他に、葉にハダニ類に似た被害を及ぼすクロゲハナアザミウマ等があるため、ハダニ類の被害と見誤らないよう防除を行う。

E 野菜類・花き類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類・ウイルス病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少ない～平年並であった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほ場周辺の除草に努める。 ・発生初期の防除を徹底する。 ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ウイルス病が発病した株は、蔓延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス(CMV)などがある。
ハダニ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除を徹底する。 ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。 ・卵～成虫の各ステージに応じた農薬を選定する。
ハスモンヨトウ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。 ※水稲やきくは、夜間に強い光を受けると開花しない。周辺にこのような作物がある場合は黄色灯の設置方向に注意すること。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
シロイチモジヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先月に引き続きフェロモントラップへの誘殺虫数はやや多かった。 ・近隣府県でも多いとの情報があった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期(若齢幼虫の集団)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・黄色灯を終夜点灯し、成虫の行動や産卵を抑制する。 ※水稲やきくは、夜間に強い光を受けると開花しない。周辺にこのような作物がある場合は黄色灯の設置方向に注意すること。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

オオタバコ ガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生予測モデルでは、本年第3世代の発生(羽化)ピークは 8 月末と推定される。従って防除適期はその7~10 日後の9 月上中旬である。 ・発生初期(若齢幼虫期・食入前)に防除を徹底する。 ・施設では、開口部をネット等(5mm 目合で可)で被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
------------	---	--

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

最新の防除指針を掲載しています。



●病害虫発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ

メールサービス担当

TEL：072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。



●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL：072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。



●Web版大阪府園芸植物病害虫図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病害虫」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

